

3 海外研修参加者部門

New Zealand 研修を通して

杉本 久美子

Editor's note: This was a speech given at Otemae University's 4th annual speech contest on December 6, 2014. A panel of judges awarded Otemae University student Kumiko Sugimoto first place in the Japanese Speech on Study Abroad Experience category for her presentation.

メディア・芸術学部 2 回生、杉本久美子です。今日は New Zealand 研修を通しての学びについてお話ししたいと思います。よろしくお願いします。

私はこの夏休みの 3 週間、New Zealand に留学に行きました。昔から留学はしたいと思っていたのですがなかなか決心がつかず、行くことができませんでした。高校生の時、学校に留学のプログラムがありました。一応テストは受けに行ったものの、不安に打ち勝つことが出来ず、結局その時は辞退してしまいました。今回もちろん不安はたくさんありました。申し込みをした時も知り合いがいなく、向こうでひとりでやっていけるのかとか、自分の英語力で 3 週間も乗り切れるのかなど、マイナスなことばかり考えて、行きたくなくなっていたのも事実です。そしてこの不安を抱えたまま飛行機に乗りました。New Zealand に着くと、すぐにそれぞれのホームステイ先に送られました。家族に会い、家に入った時のあの緊張感や不安は今でも思い出されます。翌日からは学校に行ったのですが、学校に行くにはバスに乗らなければなりません。しかし、バスの乗り方がよくわかっていなかった私は終点まで行ってしまい、1 時間街中を彷徨いました。しかし、道行く優しい人たちに助けてもらいなんとか学校に着くことが出来、現地の人の優しさに触れることが出来ました。それから一週間は向こうの生活に慣れることに必死でした。毎日目の前のことで精一杯でその時は正直、留学が良いもの、楽しいなんて思うことが出来ませんでした。

しかし、このままではダメだと思い、自分から積極的に行動することを心がけました。まずは、バスツアーです。学校には提携しているバスツアーの会社があり、週末のツアーに申し込むことが出来ます。そして私はこれに申し込み、国籍も年齢もさまざまな 17 人で 3 日間旅をしました。旅の内容は Rotorua、Taupo、Waitomo という場所を巡り、いろんなアクティビティをしたり、観光するものでした。もちろん、これらの内容も楽しかったのですが、夜、1 つの部屋にみんなで集まり、ごはんを作って何時間も語りあった時間が何よりも幸せな時間でした。お互いの母国語が理解出来ないので、みんなが自分の出来る限りの英語で自分の意思を伝え合いました。それはとても楽しく、そこに留学の意義があった気がします。この旅で出会った友達は今でも連絡を取り合ったり、交流があります。そしてこの旅を通して、自分の英語力を気にするのではなく、今の自分に出来ることを精一杯使って、自ら行動することが大事だと気付くことが出来ました。

それがきっかけとなり、それからの私は大きく変わることが出来ました。学校でも授業でたくさん発言をしたり、いろんな人に話しかけたり、そして友達もたくさんできました。友達や授業を通してその国の文化や考え方をたくさん知ることが出来ました。放課後はいろんな国の友達とおしゃべりしたり、買い物、ディナー、動物園などいろんなところへ出かけました。バスの乗り方やルートもホストマザーに教えてもらったり、自分でいろいろ調べたりと3週間目にはバスを乗りこなすことが出来るようになりました。

また、私が今アルバイトしている店が **New Zealand** にもあり、英語ではどのように接客しているのかを学びにその店にも行きました。日本に帰ってきてアルバイトするうえで、外国のお客さんに接客するとき、向こうで聞いたフレーズなどで対応するとスムーズに接客することが出来、とても役に立っています。

この研修を通して、少し不安に感じることに勇気を出し、一歩踏み出すことで新しい世界を見ることが出来る、成長出来る、ということをもっと知ることが出来ました。留学に行く前と今では自分の世界観も広がり、いろんなことに前向きに取り組むことが出来るようになりました。留学が良いものとわかり、来年はアメリカに留学するという目標を立てました。そのためにこれからも英語の勉強に励みたいと思います。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。